

令和7年度 島根県立出雲商業高等学校 学校評価

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	平均	肯定的% or 数値	評価	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価	
												評価	コメント
<p>『自立・自律できる人間の育成』</p> <p>③ 地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱ける生徒の育成</p>	<p>① 基礎・基本の徹底</p>	<p>1年 2年 3年</p> <p>生徒</p> <p>図書</p>	<p>・主体的に考え、学ぶことのできる生徒の育成</p> <p>・教科担当と連携した基礎学力の向上</p> <p>・社会人として通用する挨拶マナー・身だしなみ・ふるまいの習慣化</p> <p>・読書習慣を確立する。</p>	<p>・学力や専門性が高まるよう主体的に学んでいる生徒の割合</p>	生徒アンケート1	3.0	74	B	B	<p>・定期試験や検定に向けて専門性が高まるよう意識して取り組んでいる様子がうかがえる。一方、定期試験や検定の前だけ学習に取り組む生徒も一定数いる。【教務】</p> <p>・『校則や学校・クラスのルール・マナーを守っている』について、生徒の回答はAに対して、保護者の回答はB、教職員の回答はCであり、規範意識の向上について具体的な策が必要と考える。【生徒】</p> <p>・朝読書にしっかり取り組んでいる生徒の割合がやや低い。「本を読むことは自分のためになる」と感じている生徒の割合は高いので、実際の読書活動につなげていきたい。【図書】</p> <p>・今年度の1年生は制服が変更された初年度であり、新しい制服の着こなしの基準が十分に浸透していない部分もあったと考えられる。特に着用ルールや身だしなみの細かな指導について、教員と生徒との認識に差が生じやすかった点も要因の一つであったと感じている。【1年】</p> <p>・生徒の学力向上に向けた取り組みとしては不足していたが、学習の支援の必要な生徒に対して補習等を行っていただいたり、入院した生徒へのオンライン授業に対して円滑に行ったりすることができた。【2年】</p> <p>・生徒育成委員会や学年会を通じて、情報の共有は図ることができたが、拡大学年会などで情報の共有を図ることも必要だと感じた。【3年】</p>	<p>・指導と評価の一体化をすすめる、日常的に学習する仕掛けを各教科・科目で取り組んでもらういっぽう、単元テストを通じ、つまづきにいち早く気づき支援する学校全体での雰囲気醸成する必要があると感じている。【教務】</p> <p>・登校時や校内で、身だしなみ等について声掛けを行い、意識の向上を図る。【生徒】</p> <p>・朝読書の取り組みについて、年度当初の呼びかけだけでなく、年度途中にも生徒の実態やニーズを担任や学年部と情報交換・共有し、指導していく。【図書】</p> <p>・制服の正しい着用方法や身だしなみの意義について、学年集会やHR等を通じて継続的に指導を行い、マナー意識の向上につなげていきたい。また、保護者とも共通理解を図りながら、生徒が自ら整える意識を持てるよう支援していく。【1年】</p> <p>・拡大学年会を定期的開催して、情報の共有を図る。【3年】</p>	<p>・出雲ドームで初の出雲商業デパートを試行錯誤しながらやっていた。</p> <p>・DX化を推進し、生徒の動機づけに関わる行動や思いをデジタルで保存したらどうか。</p> <p>・身だしなみがよくないということは心の乱れにもつながるので、服装について、学校でしっかり指導を行い、家庭のほうにも協力を求めることが大切。</p> <p>・生徒は国公立大学、私立大学に多く行っているが、体験を重視した学校推薦や総合型選抜で進学していることを中学生の保護者に商業高校がどのように進路実現を果たしているか広めた方がいい。</p> <p>・出雲商業デパートで商工会議所などとかかわっていたが、ほかの団体と協力して関係機関を広げていくことを考えていただきたい</p>	
				<p>・生徒の学力向上に向け、適切かつ効果的な指導・支援を行っている割合</p>	教員アンケート9	2.9	85	A					
<p>② 自己有用感・肯定感の醸成</p>	<p>② 自己有用感・肯定感の醸成</p>	<p>全</p>	<p>・全ての活動により自己有用感の醸成を図る。</p> <p>・全ての活動により自己肯定感の醸成を図る</p>	<p>・生徒の学力向上へ向け、教科担当者・担任・学年部等が連携して効果的な指導・支援が行われていると考える教員の割合</p>	教員アンケート10	2.9	79	B	A	<p>・面接指導などを通じて、生徒自身が自分の長所に気づくことができた。【進路】</p> <p>・学校行事への参加ができない生徒もわずかにいたが、保健室での休養を入れながら学校行事への参加ができていた。【保健相談】</p> <p>・探究活動を通して生徒の自主性や個性の伸長に寄与することができたのではないかと。【図書】</p>	<p>・日々の学習の中で自己肯定感を高めるためにも、できなかったことができるようになった経験の積み重ねが必要だと考える。そのためにも、日々の指導の中で、生徒のつまづきにいち早く気づき支援することが必要だと考える。【教務】</p> <p>・生徒が活躍できる場を継続して、提供していく【生徒】</p> <p>・進路集会などを通して自身の生き方を考えるきっかけを作る。【進路】</p> <p>・個別の配慮をしながら、学校行事への取り組みを促すように支援する。【保健相談】</p> <p>・継続して探究活動等を進める。【図書】</p>		
				<p>・校則や学校・クラスのルール・マナーを守っている</p> <p>・生徒は、校則や学校・クラスのルールやマナーを守って生活している。</p> <p>・服装・頭髪指導等によって生徒の身だしなみが整っていると考える教員の割合</p> <p>・書籍等の充実が図られ、読書指導の推進がなされていると感じる教職員の割合</p>	生徒アンケート13	3.5	93	A					
				<p>・保護者は、校則や学校・クラスのルールやマナーを守って生活している。</p>	保護者アンケート12	2.9	72	B					
				<p>・服装・頭髪指導等によって生徒の身だしなみが整っていると考える教員の割合</p>	教員アンケート18	2.5	56	C					
				<p>・朝読書（書籍・新聞）にしっかり取り組んでいる生徒の割合</p>	生徒アンケート19	3.1	76	B					
				<p>・書籍等の充実が図られ、読書指導の推進がなされていると感じる教職員の割合</p>	教員アンケート30	3.0	91	A					
				<p>・出商デパートや学園祭などの学校行事において、自分は人の役に立っていると思う生徒の割合</p>	生徒アンケート32	3.3	88	A	A	<p>・オープンスクールを含めて、様々な学校行事を通じて、自己有用感や自己肯定感を醸成することが出来た。【総務】</p> <p>・日々の授業の中で自己肯定感を高める学習が概ねできている。【教務】</p> <p>・学園祭などの学校行事をとおして、自分が人の役に立っていると思える生徒が多いため、様々な場を提供できた。【生徒】</p>	<p>・日々の学習の中で自己肯定感を高めるためにも、できなかったことができるようになった経験の積み重ねが必要だと考える。そのためにも、日々の指導の中で、生徒のつまづきにいち早く気づき支援することが必要だと考える。【教務】</p> <p>・生徒が活躍できる場を継続して、提供していく【生徒】</p> <p>・進路集会などを通して自身の生き方を考えるきっかけを作る。【進路】</p> <p>・個別の配慮をしながら、学校行事への取り組みを促すように支援する。【保健相談】</p> <p>・継続して探究活動等を進める。【図書】</p>		
			<p>・学校生活で自分の長所を伸ばす・増やすことができたと感じる生徒の割合</p>	生徒アンケート30	3.1	80	A						

(次ページに続く)

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	平均	肯定的% or 数値	評価	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価	
												評価	コメント
										<ul style="list-style-type: none"> <li>・ともに生徒の充実した活動になるよう、適材適所・業務の共有化といった面で課題が残る。また、生徒のイメージするデパートと実際に行う内容の差など、事前説明や活動中の修正等にも説明・納得・共有が必要である。【商業】</li> <li>・商業部や生徒指導部からの指示が明確であり、生徒たちが主体となって行うことができていたと考える。【2年】</li> <li>・学校生活の中でできるようになったことに対する振り返りが少なかったと考える。【2年】</li> <li>・出商デパートや学園祭など様々の行事や部活動を通じて、自己有用感、自己肯定感の醸成ができていていると考える。【3年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前のアンケート実施や説明会等、全校で取り組むものとして、情報の共有や方向性の統一といった面での強化が必要。集会・説明会等では分かりにくい部分などの相談窓口の設置を検討する。【商業】</li> <li>・行事ごとだけでなく平時から小さな目標を設定させ、振り返る機会を増やす。【2年】</li> <li>・自己有用感や自己肯定感の醸成ができるような場面を増やしていく。【3年】</li> </ul>		
	③確かな人権感覚の涵養	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識を高揚させ、心身ともに健康で文化的な学校生活を送れるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した言動をしている生徒の割合</li> <li>・学校生活の中で自分の人権が守られていると感じる生徒の割合</li> <li>・本校が人権を尊重する心と態度を身に着ける人権教育を推進していると考え保護者の割合</li> </ul>	生徒アンケート 25	3.3	85	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に関する講演会を1学期に行うことで、早い段階から生徒に人権についての意識を向上させることができた。【生徒】</li> <li>・生徒による評価はおおむね良いが、保護者による評価は低い【人権】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の早い段階で講演会等を行うことを継続する。【生徒】</li> <li>・今年度は人権教育講演会等の案内がほとんどできていなかったため、来年度以降、楽メ等でその都度案内を行い、保護者の方にも参加を呼びかけていきたい。【人権】</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識に関わる調査について、生徒の評価は高いが保護者について評価が低いことについて、安心安全な学習環境が整っているのかという視点で分析することや、生徒の様子や学校の取り組みを保護者と共有することが必要。</li> </ul>
	④人格形成の場としての生徒会活動・部活動の推進	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動を見直し、活性化させる。</li> <li>・部活動への積極的な参加を促し活性化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会・各種委員会が積極的・意欲的に活動していると感じる生徒の割合</li> <li>・生徒会・各種委員会が主体的に文化祭・体育祭等の行事に取り組むための指導・支援が行われていると感じる教員の割合</li> <li>・部活動や生徒会活動に積極的に参加・活動できるような環境作りをしていると考える保護者の割合</li> <li>・部活動に積極的に行っていると考え生徒の割合</li> </ul>	生徒アンケート 16	3.0	72	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『部活動に積極的に取り組んでいる』と答えた生徒と保護者の割合に差がある。また、生徒会・各種委員会については生徒・保護者ともにBであった。生徒会や各委員会について、改善の余地がある。【生徒】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や各種委員会の活動について、担当教員と各種委員長が協力して検討していく。【生徒】</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚の涵養の保護者の評価については、講演会の周知などの対策を要する。</li> </ul>
	①主体的・協働的・創造的な探究学習の推進	教務 商業 魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的で深い学びの実現を目指し、研究に努める</li> <li>・地域の特徴を理解させ、探究活動を通じて問題解決能力を育成する。</li> <li>・各学年において目標を定め、3年間を通じた育成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的で深い学びを意識した授業を展開した教員の割合</li> <li>・1年生：「α」の授業で、探究的な学びの基礎が身についたと感じている生徒の割合</li> <li>・2年生：「β」の授業において地域の現状や課題に興味・関心を持ち意欲的に取り組むことができたと感じている生徒の割合</li> <li>・「課題研究」の授業において課題解決型の学びや探究的な学びにより自己の成長を感じている生徒の割合</li> </ul>	教員アンケート 14	2.9	82	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業の中に、主体的、対話的で深い学びを意識して、日々の授業に取り組んでいただいている。【教務】</li> <li>・α、βともに昨年度より評価がアップした。いずれも授業の進め方が確立し1年生からの系統だった活動ができてきていると考える。【魅力】</li> <li>・「課題研究」は2月の発表会に向けて、10のカテゴリの活動を行った。形に残るものとして、商品開発を行ったカテゴリも多くあり、課題解決＝商品開発といった流れがある。【商業】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各先生方の取り組みを「個」でとどめるのではなく「全」へと進めていくためにも、校内での授業公開の開催や校外研修への参加を促したい。【教務】</li> <li>・継続して探究学習をすすめ、より地域に密着した活動ができるようコーディネーターの方などと連携してすすめる。【魅力】</li> <li>・各カテゴリの学習の深化という意味でも、商品開発＝正解ではなく、課題から解決への道筋に様々なアプローチがあることを考えさせたい。【商業】</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けさせたい力である探究学習α、βの評価が高くなっているが、探究学習では出雲市「高校ネットワークコーディネーター事業」を活用してほしい。</li> <li>・探究学習で商品開発が多くみられるが、本当に商品開発をすることで課題解決になっているのかをしっかりと検討する必要がある。</li> </ul>

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	平均	肯定的% or 数値	評価	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価				
												評価	コメント			
<p>『自立・自律できる人間の育成』</p> <p>①課題発見・解決のために主体的に考え行動できる生徒</p> <p>②ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付け、他者と共同できる生徒の育成</p> <p>③地域や人を愛し、自己有用感・自己肯定感を抱ける生徒の育成</p>	②学習内容と指導の充実	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の授業の教材研究を充実させる</li> <li>クロームブック等 ICT 機器を活用し、生徒の学びを深める</li> <li>図書資料、新聞、データベース等を活用するなど、図書館を活用し、生徒の学びを深める。</li> </ul>	教材研究に積極的に取り組んでいる教員の割合	教員アンケート 8	2.9	85	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教材研究に積極的に取り組んでいる教員の割合」と生徒の「先生は授業内容が理解しやすいよう、教材等工夫をしていると感じている生徒の割合」に差があることから、生徒はもっとわかりやすい授業を欲していることが考えられる。また「クロームブックを積極的に活用した授業を実施している教員の割合」が低いが、生徒はそう感じていないことから、ある程度は必要に応じた活用ができていないのではないか。【教務】</li> <li>R8 年 1 月時点で、図書館での探究学習やその他授業は約 180 時間実施され、生徒は図書館を利用している。しかし、資料を使いこなすことができなかつたり、貸出や読書にはつながらなかつたと思われる。【図書】</li> <li>1 年生は高校での学習スタイルを身につける段階であり、授業における ICT 機器の活用については概ね実施できていた。一方で、図書資料等の活用については C 評価となっており、学習を深めるための情報活用や読書習慣の定着が十分に図れなかつた。【1 年】</li> <li>クロームブックがあることで、学習や面談等が円滑に行われたと考える。一方で、同時に集中を奪ってしまうこともあつたと考えている。【2 年】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最も肝要なのは、わかりやすい指導を心がけること。ただ、指導の難易度を安易に下げるのではなく、生徒の実態に合わせた教材研究が必要になる。また、学習用端末の活用による学習の個別最適化により、生徒の満足度を上げる工夫に取り組みたい。【教務】</li> <li>クロームブックの扱い方について、具体的に使う場面、使わない場面を提示して指導する【学年】</li> <li>授業で効果的な資料の活用ができるよう、さらに資料の充実を図り、利用指導を推進していく。貸出にもつながるよう、電子書籍の導入も計画する。【図書】</li> <li>課題解決型学習を通して主体的な学びにつなげていくためにも、図書資料や新聞、データベースを活用した学習活動をより推進し、生徒が情報を収集・整理・活用する力を育成し、学びを深める指導の充実を図っていく。【1 年】</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロームブックを教員が積極的、有効に使えるために研修やヘルプデスクを活用できる環境をつくること。</li> <li>クロームブックを使うことが大切なのかと思う。効果的に使っているかの評価はそれぞれに応じて使うものだからこの評価方法の検討が必要である。</li> <li>今の時代全部が便利になっていて、書いたり読んだりしたりすることがなくなってきたので、インプットする部分はアナログでアウトプットするのはデジタル化することが大切ではないか。</li> <li>図書館を利用している生徒が少ない。それゆえに読書をしている人が少ないと推測される。また、新聞を読んでいない生徒が多い。</li> </ul>			
				先生は授業内容が理解しやすいよう、教材等工夫をしていると感じている生徒の割合	生徒アンケート 2	3.0	75	B								
				ICT 機器等を活用する等、学習内容に興味関心が持てる工夫した指導が行われていると感じる生徒の割合	生徒アンケート 3	3.0	75	B								
				クロームブックを積極的に活用した授業を実施している教員の割合	教員アンケート 16	2.7	61	C								
				図書・情報教育推進のための働きかけが見えたと回答した教職員の割合	教員アンケート 31	3.1	95	A								
		④専門性の深化	商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定合格率を向上させる。</li> <li>一つ上を目指す資格取得に挑戦させる。</li> <li>出商デパートの開催。</li> </ul>	商業科：3 年次 2 月初旬までに 1 級 3 種目以上取得者数が学科の 40%以上 日商簿記検定 2 級取得者 15 名以上。	校内統計	—	—				C	A	商業科：3 種目 18.9% (26.7%) 情報処理科：3 種目 22.0% (30.1%) () 内は 2・3 年生を対象とした値 日商 2 級：8 名、基本情報：2 名 I T パス：7 名、応用情報：0 名	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を読んでまずは世間を知ることが大切だと感じている。ぜひとも生徒には新聞や本を読んでもっと様々な知識を付けていてもらいたい。</li> </ul>
		情報処理科：3 年次 2 月初旬までに 1 級 3 種目以上取得者数が学科の 40%以上 基本情報取得 5 名 IT パス・セキュマ取得 10 名 応用技術 1 名以上。			校内統計	—	—	A								
		商業で学んだ知識や技術を出商デパートで活用できたという生徒の割合			生徒アンケート 33	3.4	88	A								
		学びを支える安心安全な環境	①安全意識の高揚	総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災教育、避難訓練の実施 (年 3 回)</li> </ul>	災害発生時に適切に行動し、安全に避難することができる生徒の割合	生徒アンケート 6	3.4				88	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は学期に一度の避難訓練に加え、原子力防災訓練も行ったことにより、本校が 30 *。圏内であることの自覚と有事の対応を確認することで、意識の向上を図ることが出来た。【総務】</li> <li>生徒自身の評価は高いが、毎年苦情の連絡がある。【生徒】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会等の継続により規範意識の向上を図る。【生徒】</li> </ul>
						防災避難訓練が生徒や教職員の危機管理意識を高める機会につながっていると考える教職員の割合	教員アンケート 6	2.9				85	A			
登下校時、交通ルールや自転車マナーを守っている	生徒アンケート 14					3.7	95	A								
自転車点検や交通安全街頭指導により交通ルール・マナーが向上していると考えられる教職員の割合	教員アンケート 21					2.8	77	B								
②生徒理解に基づく組織的な対応	教務 生徒 保健			<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談を充実させ、課題を抱える生徒の早期発見と適切な対応を行う。</li> <li>個別の生徒の状況を把握し、必要な支援を協議して、共通理解のもとで支援を行う。</li> </ul>	保護者や先生、友人に悩みを相談したり、スクールカウンセラーに話を聞いてもらったりして、悩みごとに適切に対応している生徒の割合。	生徒アンケート 12	3.0	70	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>S C を継続して利用できる生徒がいる一方で、誰にも話せず抱え込んでいる 3 割の生徒に対して、声がけをしていく必要がある。【保健相談】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学時の相談ありの生徒、保健室利用や欠席の多い生徒等の生徒には、保健部として定期的な面談を実施しているが、さらに学年会や担任と連携して面談や相談につなげていく。【保健相談】</li> <li>遠隔授業について、教務規程に盛り込む。【教務】</li> </ul>				
					生徒は悩みを誰かに相談できていると感じている保護者の割合。	保護者アンケート 15	3.0	75	B							
					気になる生徒への支援を関係者と協力して行っていると考えられる教員の割合。	教員アンケート 33	2.9	84	A							

教育目標	重点目標等	担当	目標達成のための方策	評価項目	評価値の 元データ	平均	肯定的% or 数値	評 価	評 価	自己評価	改善策	学校関係者評価		
												評 価	コメント	
『自立・自律 できる人間の育成』 ② ビジネス マナーや コミュニケーション 能力を身に 付け、他者 と共同でき る生徒の育 成 ③ 地域や人 を愛し、自 己有用感・ 自己肯定感 を抱ける生 徒の育成	進路実現 に向けた支 援	進路	・年間行事予定に沿って企業説明会・進路ガイダンスを実施する。また、希望者対象ガイダンス等を実施する。	・第2回進路希望調査による進路希望未決定者の割合 (1年生：20%未満 2年生：10%未満)	校内統計	1年 2年	18 4	A A	A	・進路学習、1年生の大学見学。希望者ガイダンスなどを通して自身の将来について考える機会を持つことができた。【進路】	・年間行事予定に沿ってガイダンスを着実に実施する。【進路】	A		
		進路	・進路集会、LHR等で計画的・継続的な進路指導の実施 ・教職員全員での小論文指導、面接指導の実施	・進路集会、LHRなどの機会を通して企業情報、求人情報や入試情報など、進路決定に必要な情報が提供されていると感じる生徒の割合 ・入学・採用試験に向けて小論文・面接指導を適切に実施していると感じている教員の割合 ・個に応じて適切な進路指導が実施されていると感じる保護者の割合	生徒アンケート9	3.1	79	B	B	・3年生の小論文・面接指導について先生方には大変お世話になりました。特に進学では出願直前まで志望理由がはっきりしない生徒もいて担当の先生方にはご迷惑をおかけしました。 ・進路に関する情報提供について十分とは言えなかった。【進路】	・小論文問題集が進路指導室にあります。指導していただく先生方に活用を促したい。また、ICT教材など指導に有効なツールなどの研究をしていきたい。【進路】	B		
					教員アンケート27	3.1	92	A						
					保護者アンケート8	2.8	66	B						
		進路	・情報冊子（面接、小論文等）の選定・購入・利用を薦める。進路通信等を活用し、生徒・保護者に求められている情報を迅速に提供する。	・進路決定に必要な情報が提供され、自己の進路について深く考え、具体的な行動に移すことができるようになった生徒の割合 ・適切な進路情報が提供されていると感じている保護者の割合	生徒アンケート10	3.0	72	B	B	・今年度より進路の手引きを生徒ポータルに掲載され、生徒の端末から家庭でも閲覧できるようになったが、生徒・保護者の認知が進まなかったのではないかとと思われる。【進路】	・担任との面談によって、生徒や保護者がどんな情報を欲しているか知り、できるだけ情報提供をしていく。【進路】	B		
					保護者アンケート7	2.7	67	B						
	学校と地域との 協働	①魅力化コンソーシアムと学校運営	魅力	・地域の方や外部指導者と連携をした授業展開をコーディネートする。 ・身の回りの課題に気づき、課題解決をしようとする生徒を育成する。	・「地域の課題解決法について考える」認識70%	魅力化アンケート		65	B	B	・探究学習で地域の課題解決に取り組んできたことが評価アップにつながったと思われる。 ・魅力化アンケートは7月に行っており、この1年間の学習でどれだけ数値が変化したか2回目のアンケートで調査したい。【魅力】	・継続して探究学習をすすめ、より地域に密着した活動ができるようコーディネーターの方などと連携してすすめる。【魅力】	B	保護者の意見が中学生の進路決定に大きくかかわっている。保護者に商業でどのようなことを勉強するのかをオープンスクールの授業をさらに検討し例えばアプリを作るなど保護者が見たときに今後商業の学びが必要だと思える講座をやらなければならない。
					・地域の魅力や資源、課題について考えることができた生徒の割合	生徒アンケート31	3.1	79	B					
	次年度へ 向けての 準備	①新しい学習基盤づくり	総務	・オープンスクールを開催し、本校の魅力を感じてもらおう。	・オープンスクール参加者が募集定員の2倍を上回るようPRする。	オープンスクール 参加者:354名	—	99	A	A	今年度参加者は354名であり、募集定員の2倍を上回ることが出来た。アンケートも肯定的な意見が多数。【総務】	来年度は、2日間の日程を分散することで、更なる参加者増を図る。【総務】	A	
					・3観点別評価等の実施について、各教科及び学校全体で議論を深め、本校が掲げる人材の育成するための体制を確立する。 ・特別活動の評価のあり方について議論を深め、評価体制を構築する。 ・「総合的な探究の時間」の実施計画と体制を構築する。	・3観点別評価等の実施等について、教科会、教科主任会を通じて十分な情報提供や議論がされ、生徒の基礎学力と学習習慣の定着に向けて各教科で取り組みが進んでいると考える教員の割合 ・特別活動の評価について、適切に実施されていると考えますか。 ・1・2年生「α」「β」が系統立てて実施されていると感じる教員の割合。（「α」「β」は探究的な学びの時間）	教員アンケート15	2.6	61	C	B	・教員の皆さんへの情報提供や教科主任会での議論が不足していたと反省している。ただ、各教科には教科ごとの特性があり、その特性に応じて適切な評価方法を教科でも常にする必要があります。【教務】 ・本校の探究学習のスタイルが定着し先生方の間でも経験を積んでいただくことができたことが評価につながっているのではないかと。【魅力】	・生徒の学ぶ意欲を高めるため計画・指導・評価はどのようなものが適切かを教科主任会などをおし、各教科の特性をふまえ、実践してもらおう。【教務】 ・継続して探究学習をすすめ、より地域に密着した活動ができるようコーディネーターの方などと連携してすすめる。【魅力】	B
	特活委	教員アンケート39	2.8	72	B									
	魅力	教員アンケート17	2.6	68	B									

※「平均」欄は、評価（あてはまる＝4 ある程度あてはまる＝3 あまりあてはまらない＝2 あてはまらない＝1）を平均したもの

※「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A＝80％以上 B＝65～79％ C＝50～64％ D＝50％未満